

第3章 川崎遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

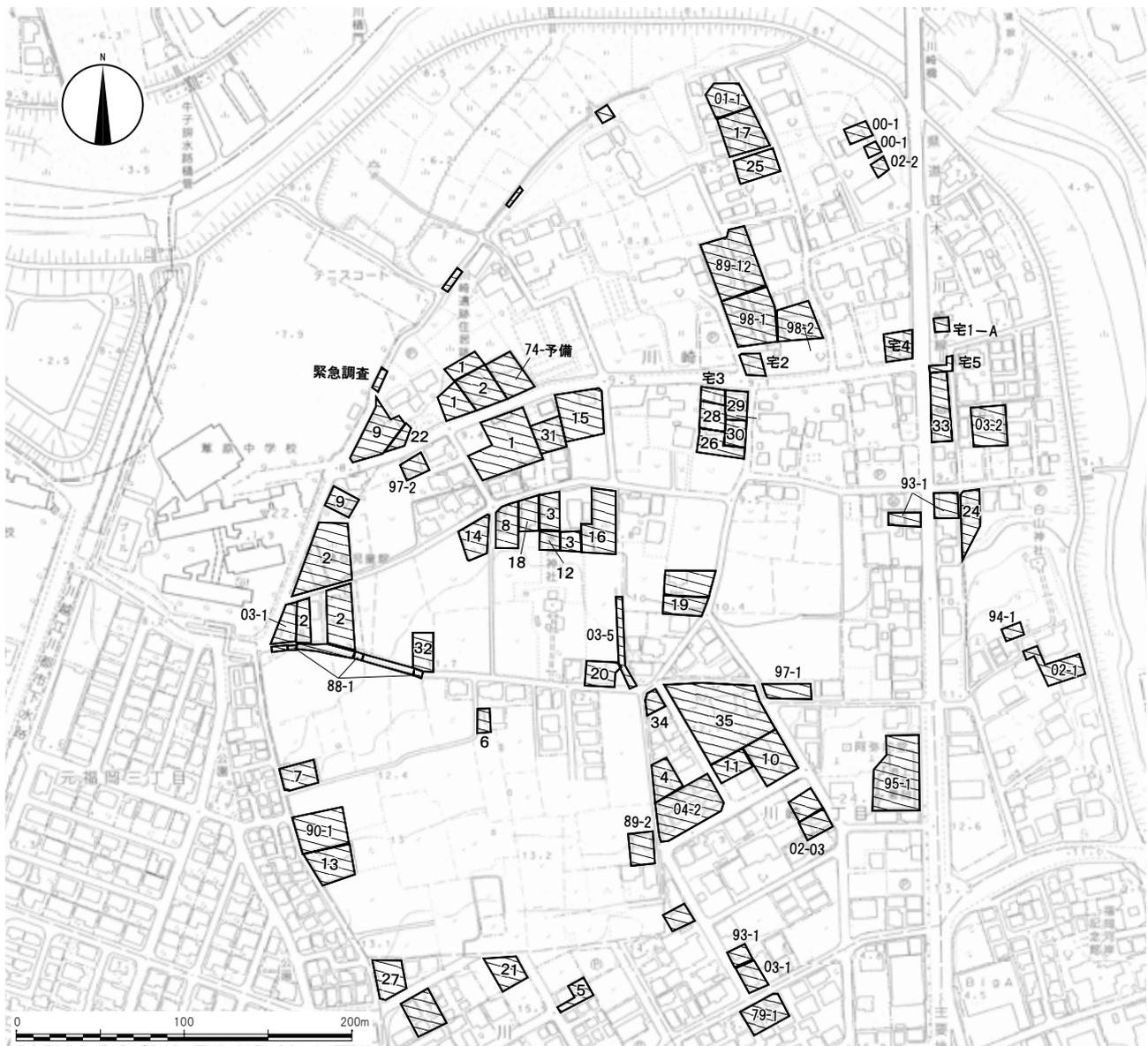
川崎遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の、いわゆる川崎台に立地している。台地の北側を東流してきた藤間江川は舌状台地の西側で新河岸川に合流し、かつては台地の先端より北東方向へ大きく蛇行していた新河岸川は、現在は台地東縁をなめるように流れる。

台地の幅は400～500m、台地の基部から先端へ1kmにわたり緩やかに傾斜しており、標高は最南部で18m、最北部では8mを測る。遺跡の範囲は南北600m、東西500m以上ある。虫食い状に宅地開発されるが、畑も良く残っている。

周辺の遺跡は、舌状台地の西側基部の急斜面上部に

川崎横穴墓群が隣接し、東側に縄文時代、古墳、奈良・平安時代のハケ遺跡がある。

1917(大正6)年頃、台地の先端部で貝層が確認され1928(昭和3)年の調査では川崎貝塚として報告された。1967年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、1980年以來2013年12月末現在40ヶ所で調査を行っている。主たる時代と遺構は、縄文時代早期の炉穴、早期から前期及び後期の住居跡、古墳時代住居跡、飛鳥時代住居跡、奈良時代住居跡、平安時代住居跡・掘立柱建物跡、中世以降の溝跡、地下式坑である。またローム層中からではないが、旧石器時代の遺物も出土している。



第5図 川崎遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第7表 川崎遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積 (㎡)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
予備発掘調査	川崎160	(1974.3.25～4.4)	84	事前調査	炉穴3、土坑2、ピット群、縄文土器、石器	上遺調
1次	川崎162～176	1974.7.20～9.19	1,800	事前調査	住居跡11軒(縄文前期3、古墳前期1、国分7)、溝3、堀2、土坑5、地下式坑6、集石1	川崎遺跡第1次調査概報
緊急発掘調査	大字川崎宇宮後168-3	1975.3.30～5.10	198	個人住宅	溝3、縄文土器、石器、平安土師器・須恵器・灰釉陶器・布目瓦・瓦塔	上遺調
宅地添1次(A地区)	大字川崎宇宅地添122	1975.6.8～29	50	個人住宅	縄文早期住居跡1軒、縄文土器、石器、礫	上遺調
2次	川崎137～174	1975.9.4～12.5	3055	事前調査	縄文住居跡9軒、古墳住居跡6軒、奈良平安住居跡10軒、中世遺構他	川崎遺跡第2次調査概報
3次	川崎149-6	1977.11.1～12.3	300	住宅建設	縄文住居跡2軒(7,8)、奈良平安住居跡6軒(1,2,4～6,9)、焼土散布、柱穴、溝	川崎遺跡(第3次)・長宮遺跡
宅地添2次(B地区)	川崎198	1978.5.15～25	170	宅地造成	土坑3、ピット	埋(I)
宅地添3次(c地区)	川崎230	1978.5.23～31	130	宅地造成	井戸跡2、地下坑1、溝1	埋(I)
4次	川崎2-5-2	1979.4.19～5.11	304	宅地造成	縄文前期住居跡1軒、溝1、黒浜式土器、貝類	埋(II)(IV)
5次	川崎1-1-4	1979.9.26～10.10	152	宅地造成	溝状遺構	埋(II)
79年度試掘(清見)	清見4-3-11	(1979.11.12～19)	260	宅地造成	溝1	埋(II)
6次	川崎102-5	1979.12.3～8	30	プレハブ家屋	縄文前期住居跡2軒、縄文土器片、平安住居跡2軒	埋(II)
7次	川崎124-3	1981.11.27～30	316	個人住宅	遺構なし、平安土器片	埋(IV)
8次	大字川崎宇宮脇148-1	1984.1.17～26	400	住宅建設	溝1	埋(VI)
宅地添4次	川崎宅地添219	1984.9.25～10.9	301	住宅建設	縄文住居跡1軒、平安住居跡1軒	埋(VII)
9次	川崎宇宮後口172-1,2	1986.9.11～20	495	個人住宅	溝2、縄文後・晩期、平安土器散布	埋(IX)
10次	川崎224-1	1987.11.24～30	603	個人住宅	溝1	埋(X)
11次	川崎2-6-2	1988.5.10～17	289	住宅建設	なし	埋(11)
88試	市道402号線	(1988.9.19～21)	60	下水道設置	住居跡1軒	埋(11)
89試(1)	川崎宇宅地添196-1	(1989.4.10～18)	1045	住宅建設	なし	埋(12)
89試(2)	川崎宇宮前98-2	(1989.10.3～6)	264	住宅建設	なし	埋(12)
12次	川崎宇宮前149-4,5	1990.4.20～27	311	住宅建設	溝2	埋(13)
13次	大字川崎宇宮前122	1990.5.1～17	480	住宅建設	奈良住居跡1軒	埋(13)
90試(1)	大字川崎宇宮前122	(1990.5.18～23)	530	範囲確認	なし	埋(13)
14次	大字川崎宇宮前145	1990.10.1～31	499	住宅建設	縄文前期住居跡1軒、貝塚、平安住居跡1軒	埋(13)
15次	川崎宇宮後口160-1	1991.10.23～11.20	499	個人住宅	平安住居跡7軒、土坑1	埋(14)
92試(1)	大字川崎宇山向9-5	(1993.2.18～19)	168	店舗併用住宅	なし	埋(15)
93試(1)	川崎2-2-10,11	(1993.8.24)	131	個人住宅	なし	埋(16)
93試(2)	川崎1-1-1の一部	(1993.9.10～13)	422	個人住宅	なし	埋(16)
94試(1)	川崎宇台258他1筆	(1994.11.17～24)	230	機材置場敷設	なし	埋(17)
95試(1)	川崎2-7-2,3	(1995.10.13～16)	1126	消防署	なし	埋(18)
16次	川崎宇宮脇150-2,3	1995.12.11～1996.3.8	828	駐車場及び資材置場敷設	縄文前期(黒浜期)大形住居跡1、同期住居跡2・土坑2、平安住居跡4軒・掘立柱建物跡6棟、中世竪穴状遺構2	7年教要
17次	川崎宇宅地添204の一部	1996.7.15～23	779	個人住宅	平安住居跡1	埋(19)
18次	川崎宇宮脇148-3	1996.11.18～25	198	個人住宅	平安住居跡1	埋(19)
97試(1)	川崎宇山向21	(1997.4.14)	367	宅地造成	溝1(時期不明)	埋(20)
97試(2)	川崎宇宮後口165-6	(1997.10.20)	204	個人住宅	なし	埋(20)
97試(3)	川崎宇宅地添199-1,2,5	(1998.2.12～16)	780	個人住宅	なし	9年教要
98試(1)	川崎宇宅地添197-1	(1998.10.27～11.6)	996	宅地造成	縄文前期土坑1他	埋(21)
市道402号線2次	川崎宇宮前、宮脇地内	2000.2.21～25	496	道路築造	縄文前期住居跡1	11年教要
00試(1)	川崎大字宅地添209の一部	(2000.6.19～22)	123.3	個人住宅	貝塚の一部	埋(23)
範囲確認調査	川崎宇宅地添209	(2001.6.12～25)	100	車庫	溝1	埋(24)
19次	川崎宇宮脇157の一部	2001.9.18～10.4	289	個人住宅	平安初頭住居跡1	埋(24)
01試(1)	川崎宇宅地添204-1	(2001.10.29,30)	825	宅地造成	なし	埋(24)
02試(1)	川崎249-1の一部	(2002.5.13)	341	倉庫	なし	埋(25)
02試(2)	川崎210-1,2の一部	(2002.10.28,29)	551	共同住宅	溝1【盛土保存】	埋(25)
02試(3)	川崎2-4-16	(2002.12.24)	228	個人住宅	なし	14年教要
02試(4)	川崎2-2-12	(2003.3.13)	165	個人住宅	なし	14年教要
02試(5)	川崎宇宮脇155先	(2003.3.26)	164	市道401号線舗装工事	なし	14年教要
03試(1)	川崎137-1の一部	(2003.8.6,7)	257	個人住宅	なし	埋(26)
03試(2)	川崎宇宅地添226-14	(2003.12.8,19)	381	個人住宅	なし	埋(26)
宅地添地区5次	川崎宇宅地添222-3先	2004.2.16～18	88		古墳初頭竪穴住居跡1軒【調査実施】	15年教要
04試(1)	川崎宇宮脇157-1の一部	(2004.6.14,15)	421	個人住宅	平安時代竪穴住居のカマドの一部	埋(27)
04試(2)	川崎2-5-1	(2004.11.1～4)	881	宅地造成	なし	埋(27)
20次	川崎宇宮脇153-5	(2005.11.22～27) 2005.11.28～12.2	257	個人住宅	古墳住居跡1	市内1
21	川崎1-6-10	(2006.4.11) 2006.4.14～20	298	個人住宅	奈良住居跡1、溝	市内3
22	川崎171-1,174-10	(2007.4.16～23)	104	消防分団倉庫	炉穴4、地下式坑2、穴蔵1、土坑2	市内4
24	川崎宇宅地添225-3	(2007.10.4)	319	共同住宅	なし	市内4
25	川崎宇宅地添203番1の一部 203番3の一部	(2008.4.14) 2008.4.15～17	1033	個人住宅	奈良時代掘立柱建物跡1棟、溝、近代以降の地下室1基	市内6
26	川崎宇宅地添230番5	(2008.4.21) 2008.4.22～5.17	228	個人住宅	奈良・平安時代竪穴住居跡4軒、土坑、ピット、近代以降の井戸1	市内6
27	川崎1-7-1	(2008.5.15～5.21)	350	分譲住宅	時期不明の溝1、土坑1	市内6
28	川崎宇宅地添230-7	(2008.7.4～7.9) 2008.7.10～8.8	434	個人住宅	奈良・平安時代竪穴住居跡2軒、土坑、ピット	市内6
29	川崎宇宅地添230番1	(2008.7.9～7.11) 2008.7.14～8.22	203	個人住宅	奈良・平安時代竪穴住居跡2軒、溝3	市内6
30	川崎宇宅地添230番6	(2008.7.17) 2008.7.18～9.5	200	個人住宅	奈良・平安時代竪穴住居跡4軒、井戸3、土坑、溝5	市内6
31	川崎宇宮後161番5の一部 161番地6	(2009.10.28) 2009.10.28～11.27	304	個人住宅	縄文時代中期～後期住居跡2軒、奈良・平安時代竪穴住居跡2軒、ピット12	市内8
32	川崎宇宮脇140の一部	(2011.2.24～25) 2011.3.2～25	396	個人住宅	奈良・平安時代竪穴住居跡3軒、土坑2、建物部分本調査	市内10
33	川崎宇宅地添226-5	(2011.4.14～21)	438	共同住宅	なし	未報告
34	川崎2丁目5-4	(2011.7.25～26)	117	分譲住宅	なし	未報告
35	川崎2丁目6-4～7、9	(2011.9.27～11.24)	1924	分譲住宅	縄文時代前期(黒浜期)住居跡1軒、奈良平安時代住居跡1軒他	未報告
36	川崎宇宮前100-1	(2011.12.15～26) 2012.1.17	1096	公園整備	奈良平安時代住居跡6軒他	未報告

※埋：上福岡市教育委員会埋蔵文化財の調査報告書、上遺調：上福岡市遺跡調査会報告書、教要：上福岡市教育要覧、市内：ふじみ野市市内遺跡群報告書

第8表 川崎遺跡古代住居跡一覧表 (単位 cm)

住居 番号	調査年度	調査名	調査率	平面形() は推定	規模	炉 カマド K	設置壁	カマド	周 溝	主軸方位	時期	備考	文献
								規模 cm					
1	1974	第1次LN72	完掘	隅丸方形	760 × 730 × 40	炉	地床炉	60 × 50	○	N-60-E	3世紀終末	市指定文化財	川崎遺跡第1次概報
2	1974	第1次LN05	完掘	方形	390 × 320 ×	K			○	N-5-E	国分		〃
3	1974	第1次LN06	完掘	歪んだ方形	320 × 320 ×	K	東			N-13-W	9C 4半期		〃
4	1974	第1次LN07	完掘	方形	320 × 320 ×	K	東	80 × 90	○	N-83-W	9C 中葉		〃
5	1974	第1次LN24	完掘	長方形	470 × 340 × 50	K	北	120 × 75	○	N-5-E	10C 1半期		〃
6	1974	第1次LN25	完掘	方形	320 × 300 ×	K	北	40 × 40		N-42-E	9C 1半期		〃
7	1974	第1次LN28	西側未掘	(長方形)	× 300	K	東	50 × 60	○	N-69-W	9C 3半期		〃
8	1974	第1次LN71	東側7割未掘	(方形)	× 600								〃
9	1975	第2次LN75	部分	(長方形)									川崎遺跡第2次概報
10	1975	第2次LN92	部分	(長方形)							10C 1半期		〃
11	1975	第2次LN72	完掘	隅丸方形	250 × 250 × 13	K	南	50 × 80		N-18-E	国分		〃
12	1975	第2次LN07	完掘	方形	720 × 720	K	北		○	N-32-E	6C後半	ピット多数 土すい	〃
13	1975	第2次LN04	完掘	方形	390 × 350	K	東	60 × 70	○	N-64-E	6C前半	貯蔵穴有り	〃
14	1975	第2次LN05	完掘	長方形	450 × 370	K	北	100 × 80	○	N-1-E	10C 2半期		〃
15	1975	第2次LN19	14住に切られる			K	東				9C 4半期	支脚がたったまま	〃
16	1975	第2次LN14	完掘	長方形	370 × 260	K	北	90 × 80	○	N-4-E	9C 3半期		〃
17	1975	第2次LN12	南側未掘	長方形	700 ×						6C	紡錘車	〃
18	1975	第2次LN33	17住と大きく重複し全体不明										〃
19	1975	第2次LN06	完掘	隅丸方形	410 × 420	K	北東		○	N-45-E	6C後半	良好	〃
20	1975	第2次LN22	完掘	長方形	410 × 330	K	北	120 × 120	○	N-29-W			〃
21	1975	第2次LN53	完掘	長方形	350 × 280	K	東	70 × 60	○	N-87-E	10C 2半期	22住を切る	〃
22	1975	第2次LN54	部分	方形	330 × 320	炉	地床炉				五領		〃
23	1975	第2次LN20	3/5	(長方形)	× 350	K	北		○	N-23-E	9C 2半期	鍛冶工跡	〃
24	1975	第2次LN21	ほぼ完掘	正方形	580	K	北西	50 × 70	○	N-43-W	鬼高		〃
25	1977	第3次1号住居	南東隅のみ	(長方形)		K	東	途中で廃絶されたもの	○				川崎遺跡第3次
26	1977	第3次2号住居	完掘	長方形	350 × 330	K	北	× 70	○		国分	鉄製品多い	〃
27	1977	第3次4号住居	(完掘)	長方形	350 × 400	K	東	170 × 110	○		国分		〃と埋文調査19
28	1977	第3次5号住居	(完掘)	長方形	350 × 320	K	東	120 × 90	○		国分		〃と埋文調査19
29	1977	第3次6号住居	4/5	正方形	440 ×	K	北	155 × 90	○		9C 4半期	焼失家屋	〃
30	1977	第3次9号住居	1/2	(方形)	415 ×				○		国分		〃
31	1979	第6次1B住居			340 ×				○		9C 2半期		埋蔵文化財の調査II
32	1979	第6次2号住居	1/3		340 ×	K	北→東	140 × 80	○		9C 1半期	鉄製品多い	〃
33	1984	宅地添第4次3住	完掘	正方形	340 × 340	K	東	120 × 100	○		8C 3半期		埋蔵文化財の調査VII
34	1990	第13次1号住居	1/2 ~ 1/3		390 ×	K			○		7C後半		埋蔵文化財の調査13
35	1990	第14次2号住居	南1/2		340 ×	K	東		○		9C 1半期		〃
36	1991	第15次1号住居			395 × 285	K	北東				9C ~ 10C		埋蔵文化財の調査14
37	1991	第15次2号住居		正方形	380 × 380	K	東				9C 中葉		〃
38	1991	第15次3号住居	完掘	長方形	265 × 430	K	南東		○		9C 初頭		〃
39	1991	第15次4号住居	1/2	正方形	580 ×	K	東		○		8C末 ~ 9C初頭		〃
40	1991	第15次5号住居	3/4		280 ×	K	北		○		9C前半 ~ 中		〃
41	1991	第15次6号住居		正方形	425 × 270	K	北		○		8C後半	35.36住と重複	〃
42	1991	第15次7号住居	1/2	正方形	570 ×	K	北		○		9C前半	緑釉陶器、焼失家屋	〃
43	1994	第16次1号住居	1/2		450 ×				○		9C前半 ~ 後半		未報告
44	1994	第16次2号住居	北西隅のみ								9C前半 ~ 後半		〃
45	1994	第16次5号住居	2/3		440 ×	K	東		○		9C前半 ~ 後半		〃
46	1994	第16次6号住居	カマドのみ			K	東						〃
	1994	第16次1号掘立	2/3	長方形									〃
	1994	第16次2号掘立	西側柱のみ	長方形			南北2間				9C前半 ~ 後半	42住と隣接	〃
	1994	第16次3号掘立	完掘	長方形			南北3間 東西2間				〃	〃	〃
	1994	第16次4号掘立	完掘	長方形			南北3間 東西2間				〃	〃	〃
	1994	第16次5号掘立	1/2	長方形			南北2間				〃	〃	〃
	1994	第16次6号掘立	完掘	長方形			南北3間 東西2間				〃	〃	〃
47	1996	第17次1号住居	完掘	長方形	400 × 400	K	東		○		国分	墨書土器	埋蔵文化財の調査19
48	1996	第18次2号住居	完掘	長方形	300 × 300	K	東		○		国分		埋蔵文化財の調査19
49	2001	第19次1号住居	1/2		360 ×	K					9C前半		埋蔵文化財の調査24
50	2005	第20次1号住居	完掘	長方形	320 × 350	K	北西		○	N-45-W	7C前半 ~ 中		市内遺跡群1
51	2006	第21次1号住居	完掘	方形	410 × 365 × 10	K	東	145 × 125	○	N-106-E	9C後半		市内遺跡群3
	2008	第25地点1号掘立		長方形			南北2間 東西2間						市内遺跡群6
52	2008	第26地点H28号住居	完掘	方形	349 × 316 × 33	K	北	95 × 83	○	N-16-E	9C後半		〃
53	2008	第26地点H29号住居	北側のみ	(方形)	431 × 205 × 24	K	北	70 ×	○	N-16-E	9C後半		〃
54	2008	第26地点H30号住居	完掘	長方形	424 × 296 × 20	K	北	98 × 71	○	N-4-E	8C後半		〃
55	2008	第28地点H31a号住居	北側のみ	(方形)	(390) × (233) × 15	K	北	88 × 84		N-19-E	8C中 ~ 後半		〃
56	2008	第28地点H31b号住居	北側のみ	(方形)	(404) × 325 × 2				○	N-18-E			〃
57	2008	第28地点H32号住居	完掘	長方形	357 × 295 × 24	K	東	108 × 80	○	N-105-E	8C中 ~ 後半		〃
58	2008	第29地点H33号住居	北東のみ	(方形)	(214) × (205) × 16	K	東	(65) × (65)	○	N-98-E	8C後半 ~ 9C初頭		〃
59	2008	第29地点H34号住居	完掘	方形	(378) × 372 × 12	K	北	71 × 90	○	N-16-E	9C後半	墨書土器	〃
60	2008	第30地点H35号住居	完掘	長方形	294 × 232 × 26	K	東	141 × 88	○	N-104-E	9C前半		〃
61	2008	第30地点H37号住居	完掘	方形	415 × 414 × 21	K	北	88 × 140	○	N-16-E	9C後半	灰釉陶器	〃
62	2008	第30地点H38号住居	1/2	(方形)	375 × (105) × 17				○	N-5-E	9C後半	墨書土器	〃

II 川崎遺跡第32地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より「埋蔵文化財事前協議書」が2010年12月9日付けでふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の西側に位置し、近隣地では古代住居跡を検出している。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するための試掘調査を実施した。

試掘調査は2011年2月24日に、調査区に幅約1.5mのトレンチ5本を設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行った。その結果、現地表面から約40cmの深さで平安時代の住居跡を確認した。再度協議の結果、工事による掘削が遺構に影響を与えるため、補助事業の対応で本調査を行った。

本調査は3月4日から3月25日まで行った。本調査の結果、9世紀の住居跡3軒、土坑3基、ピット5基を検出し、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、本調査を終了した。

(2) 遺構と遺物

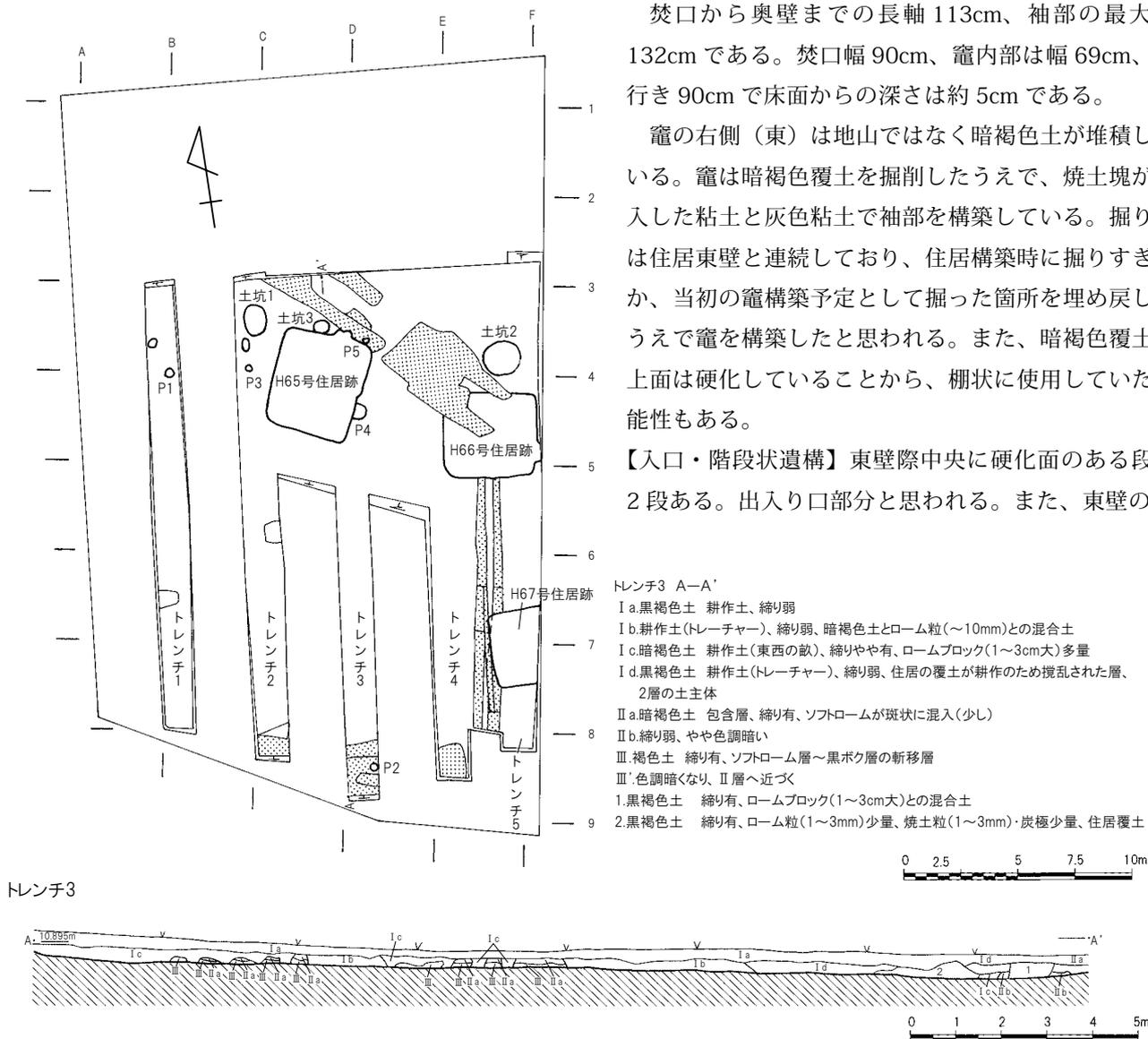
① H65号住居跡

【位置・形状】調査区の中央部に位置する。4m東にH66号住居跡、10m南東にH67号住居跡がある。平面形態は長方形で主軸方位はN-27°-Eである。規模は主軸が南北4.6m×東西3.55m、確認面からの深さ35cmである。竈を含めた主軸長は4.95mである。
 【竈】住居跡北壁の中央やや東寄りに構築される。煙道は後世の攪乱(イモビツ)で壊される。竈は灰色の粘土で構築され、天井部は崩落し袖の一部が残る。竈内部の底面に焼土面が残る。

焚口から奥壁までの長軸113cm、袖部の最大幅132cmである。焚口幅90cm、竈内部は幅69cm、奥行き90cmで床面からの深さは約5cmである。

竈の右側(東)は地山ではなく暗褐色土が堆積している。竈は暗褐色覆土を掘削したうえで、焼土塊が混入した粘土と灰色粘土で袖部を構築している。掘り方は住居東壁と連続しており、住居構築時に掘りすぎたか、当初の竈構築予定として掘った箇所を埋め戻したうえで竈を構築したと思われる。また、暗褐色覆土の上面は硬化していることから、棚状に使用していた可能性もある。

【入口・階段状遺構】東壁際中央に硬化面のある段が2段ある。出入り口部分と思われる。また、東壁の一



第7図 川崎遺跡第32地点遺構配置図(1/300)、土層図(1/150)

部は段状面と同一面まで掘削されている。規模は奥行き75cm・幅48cmである。一段目はわずかな高まりで床面より3cmほど高く、平坦面の奥行き33cm・幅45cm。二段目は平坦面の奥行き35cm・幅32cm、床面からの高さ21cmである。硬く締まった黒褐色土で構築され、平坦面はローム塊が混入し特に硬い。

遺構の下は土坑状の窪みがあり、ロームを含む黒褐色土で埋め戻されている。規模は145×80cm、床面からの深さ17cmである。

【貼床・周溝】周溝は住居の西・南壁際と東壁際跡の一部に巡り、上幅12～30cm、下幅5～14cm、深さ5cmである。

貼床は床面全体に5～18cm厚で薄く貼られる。床面は住居北東から中央部の竈前から階段状遺構にかけて特に硬化する。

【掘り方】ほぼ平坦だが、竈前から中央部と東側にかけて20cm前後掘られた後、埋め戻されている。

【遺物出土状況】遺物はほぼ全面に散在するが、東壁の階段状遺構より北側にかけてやや集中する。

【時期】10世紀。

② H 66号住居跡

【位置・形状】調査区の中央東側に位置する。4m西にH66号住居跡、6m南にH67号住居跡がある。北西部分は構成の攪乱で壊される。平面形態は方形で主軸方位はN-99°-Eである。規模は主軸が東西4.2m×南北3.65m、確認面からの深さ50cmである。竈を含めた主軸長は4.35m以上である。

【竈】住居跡東壁の南寄りに構築される。煙道は調査区域外になる。竈は灰色の粘土で構築され、天井部は崩落し袖の一部が残る。竈内部の底面に焼土面が残る。

焚口から調査区内の奥行き49cm、袖部の最大幅105cmである。焚口幅40cm、竈内部は幅54cm、床面からの深さは約6cmである。

竈の中央に礫が立脚状態で残存していた。支脚と思われる。

【ピット】5基検出した。P1とP2は南壁から20cmの距離にあり、P1は西壁から90cm、P2は東西壁のほぼ中央に位置する。P1とP2の中心間の距離は85cmである。P3は北壁中央、P4は北東隅に位置する。いずれも深さ10cm前後と浅い。

【貼床・周溝】周溝は住居の北・西・東壁際の一部に巡り、北東隅と西壁中央から南壁にはない。上幅15

～28cm、下幅5～10cm、深さ5～9cmである。

貼床は床面全体に2～8cm厚で薄く貼られる。

【掘り方】ほぼ平坦だが、竈前から南側にかけては壁際が10cm前後浅く掘られた後、埋め戻されている。

【遺物出土状況】遺物はほぼ全面に散在するが、竈内にやや集中する。

【時期】8世紀後半～9世紀初頭。

③ H 67号住居跡

【位置・形状】調査区の南東部に位置する。10m北西にH65号住居跡、6m北にH66号住居跡がある。東側は調査区域外であるため、主軸方位は不明だが、平面形態は方形で南北壁の方位はN-0°-Eである。規模は南北3.3m、調査区域内の東西2.2m、確認面からの深さ30cmである。竈は調査区域内では検出しなかった。

【ピット】2基検出した。P1は北側中央、P2は南西隅にある。

【貼床・周溝】周溝は住居の北・西・南壁際に巡る。上幅15～25cm、下幅5～15cm、深さ4～7cmである。

貼床は床面全体に2～5cm厚で薄く貼られる。床面は住居中央が硬化する。

【遺物出土状況】遺物は中央から南側に散在する。

【時期】10世紀。

④土坑

3基検出した。土坑1と土坑2は縄文時代。

第9表 川崎遺跡第32地点H65号住居跡ピット一覧表(単位cm)

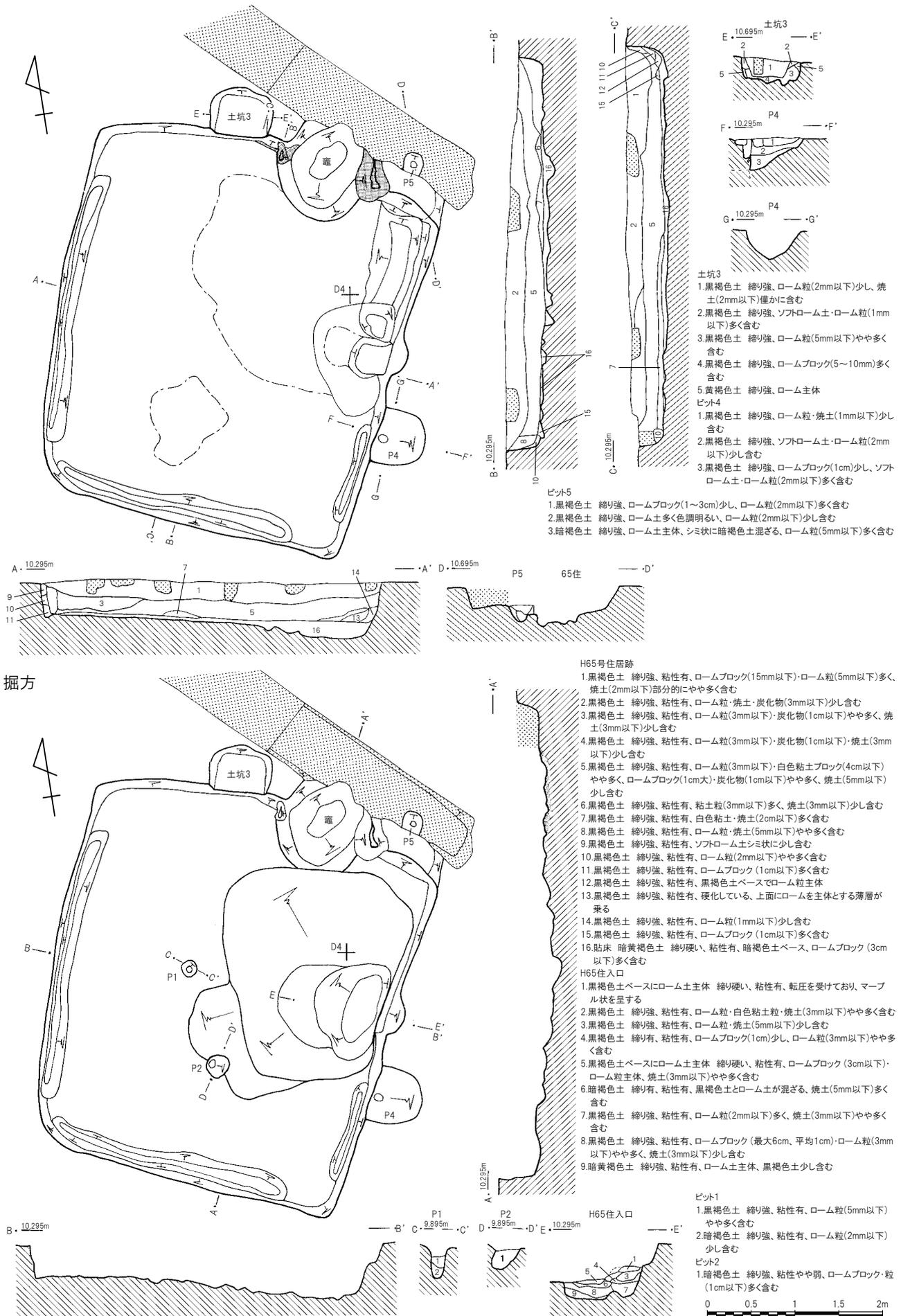
No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	方形	18×17	8×6	37.9	
P2	円形	27×24	8×8	54.3	
P4	不明	(65)×(61)	10×9	35.6	
P5	不明	24×(23)	8×7	23.3	

第10表 川崎遺跡第32地点H66号住居跡ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	方形	26×23	14×12	7.6	
P2	円形	29×22	12×9	23.5	
P3	ひょうたん形	67×53	27×14	15.4	
P4	楕円形	60×42	39×26	13.6	
P5	不明	25×(8)	7×3	4.9	

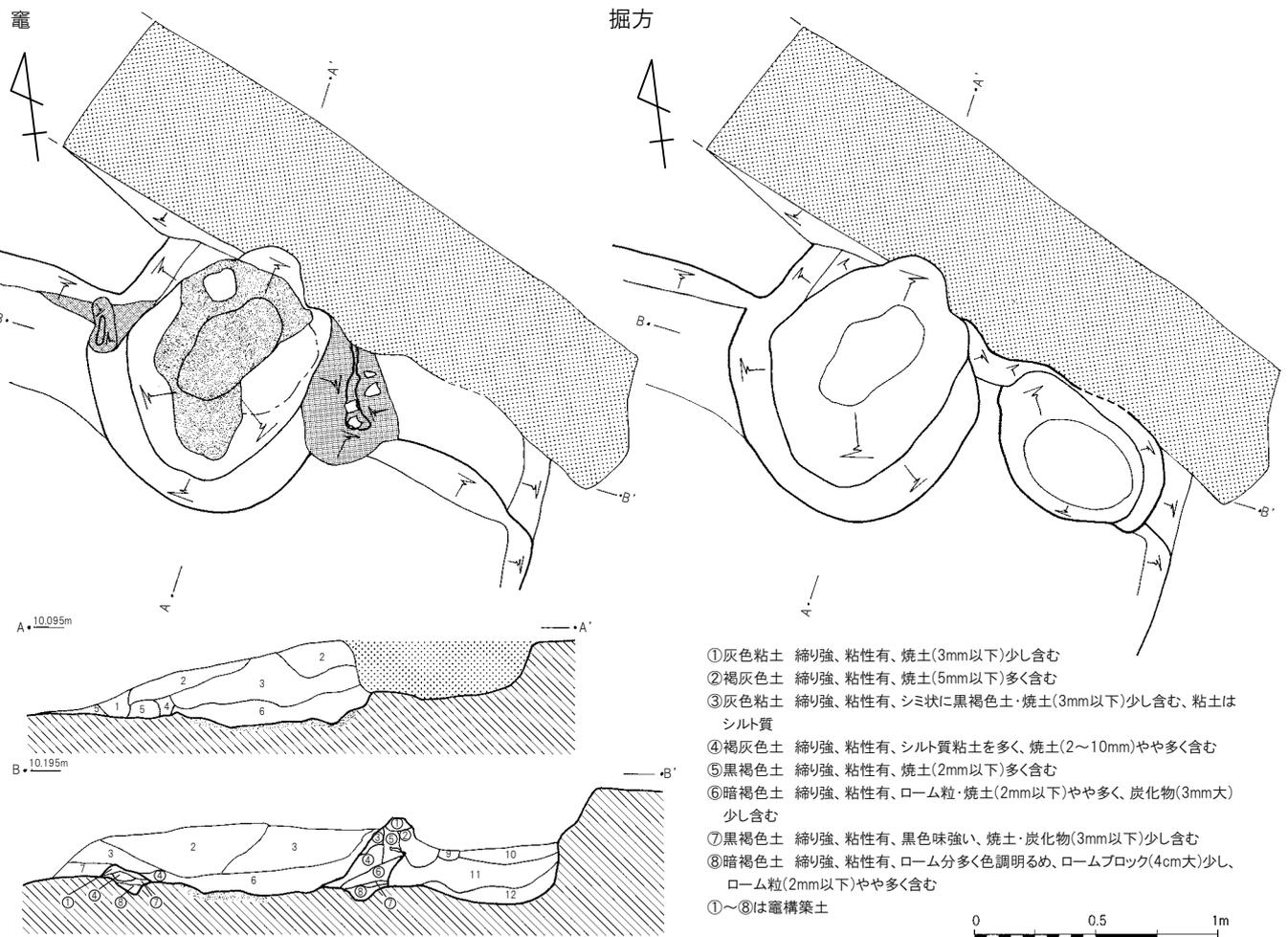
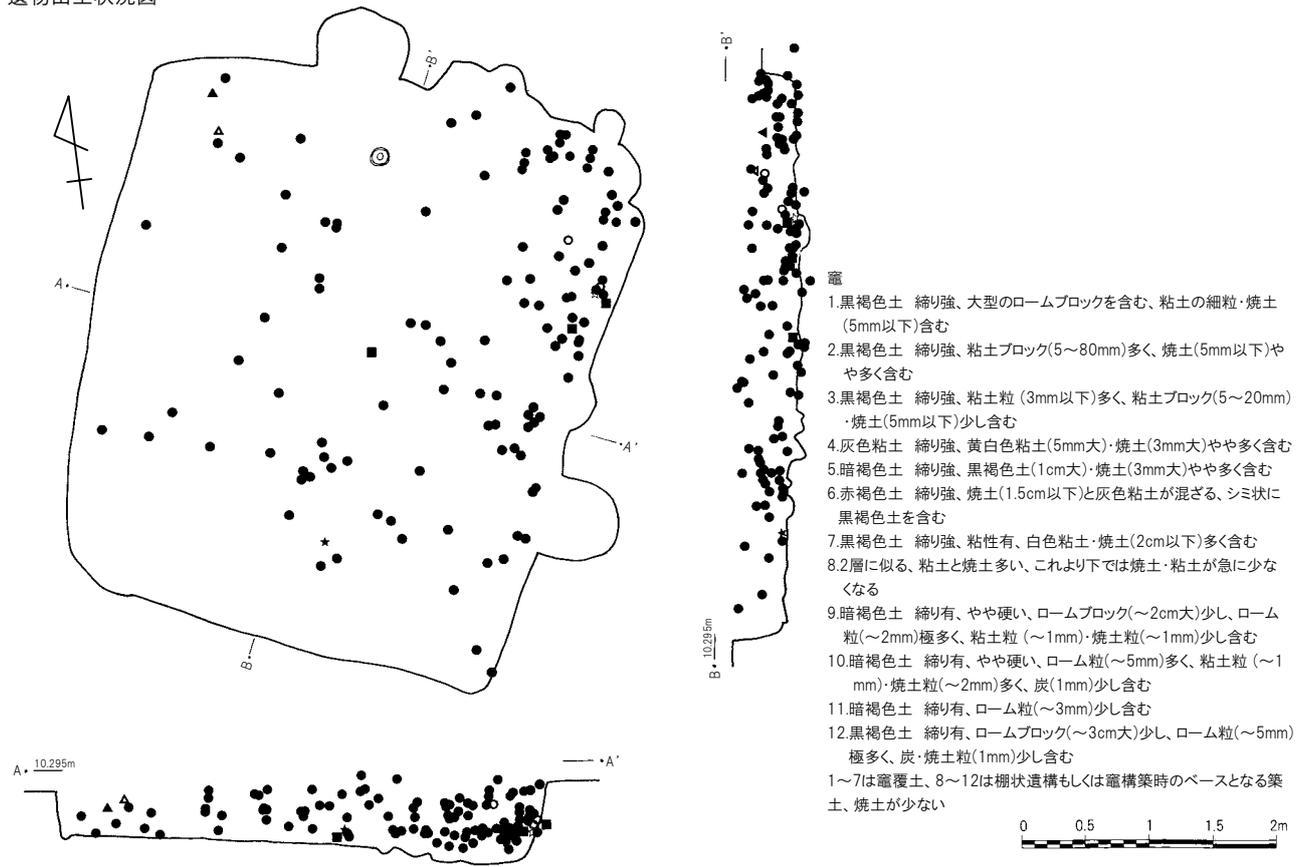
第11表 川崎遺跡第32地点H67号住居跡ピット一覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	楕円形	94×41	33×17	29.7	
P2	円形	36×33	15×14	15.6	

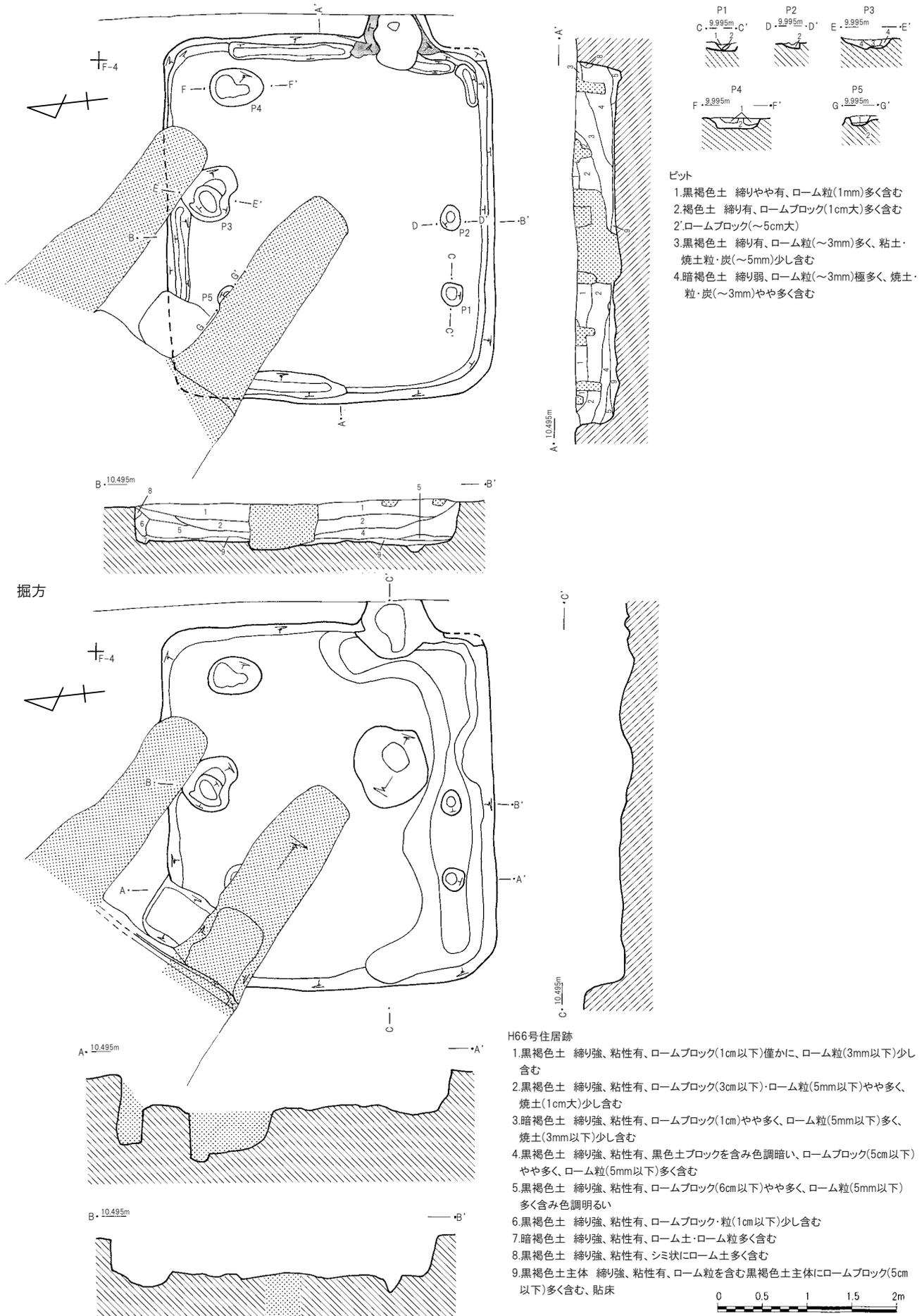


第8図 川崎遺跡第32地点 H65号住居跡・掘方 (1/60)

遺物出土状況図

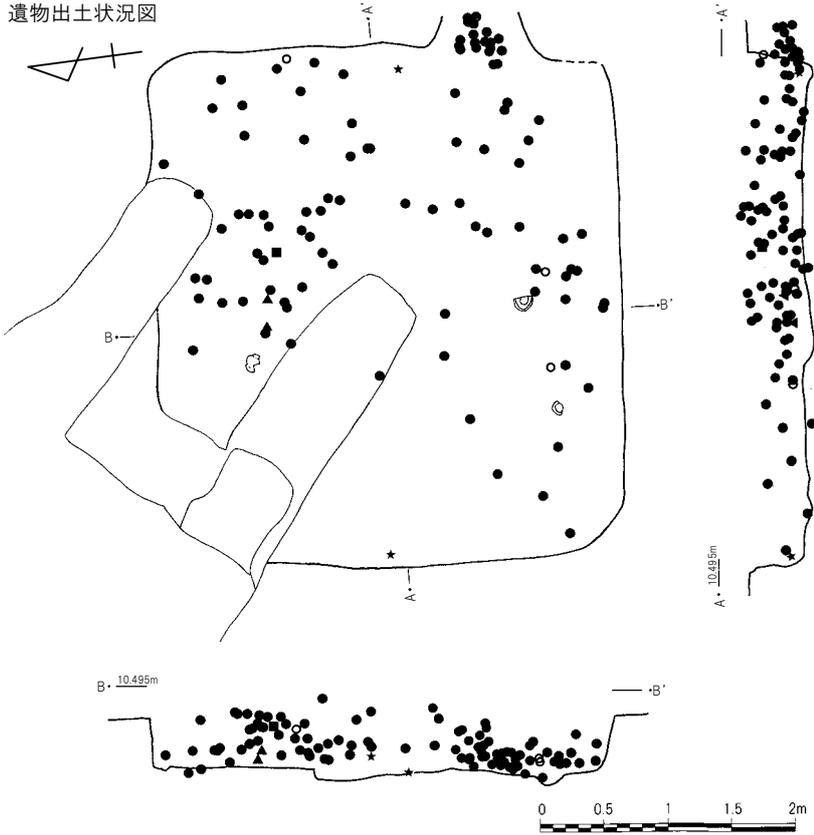


第9図 川崎遺跡第32地点 H65号住居跡遺物出土状況図(1/60)、竈・掘方(1/30)



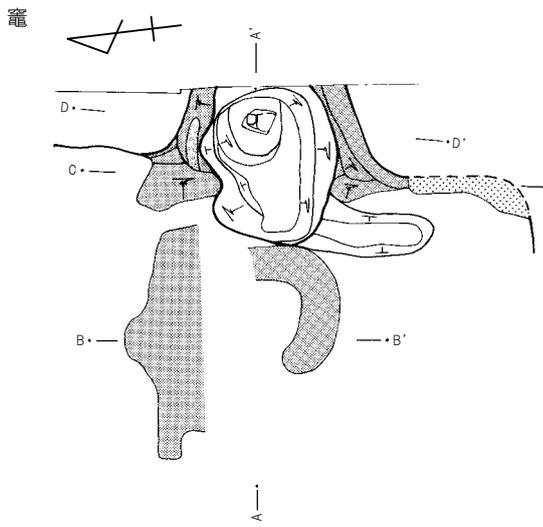
第10図 川崎遺跡第32地点 H66号住居跡・掘方 (1/60)

遺物出土状況図

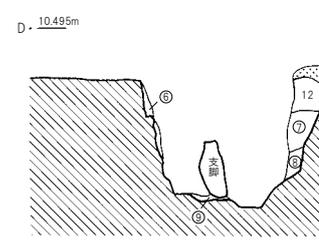
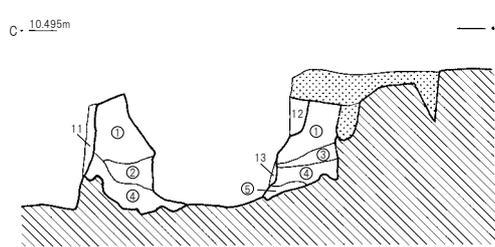
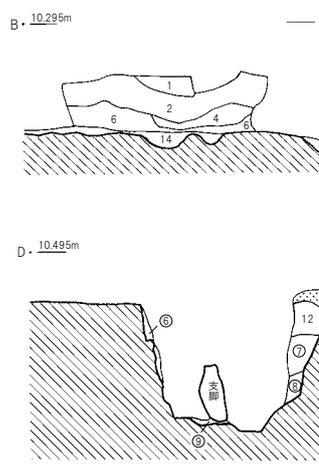
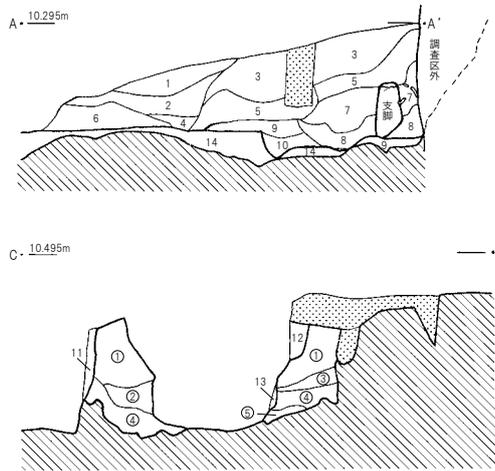
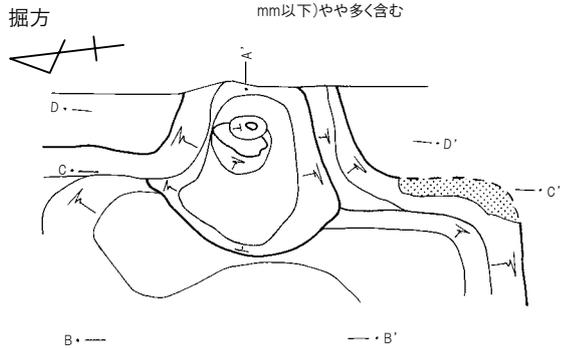


- 竈
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)・灰色粘(シミ状)やや多く、黒色土粒(3mm以下)・焼土(5mm以下)少し含む
 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(3mm以下)少し、灰色粘土ブロック(5~30mm)多く含む
 3. 灰色粘土 締り強、粘性有、黒褐色土・ローム粒・黒色土粒(3mm以下)少し含む
 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック(最大5cm)・ローム粒(2mm以下)少し含む
 5. 黒褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック(2cm以下)少し、ローム粒(3mm以下)やや多く、灰色粘土(1cm以下)少し含む
 6. 黒褐色土 締り硬い、粘性有、土質は5層に同じ
 7. 黒灰色土 締り強、粘性有、粘土分を多く含む、焼土(5mm以下)やや多く含む、全体の色調は赤褐色色を帯びる
 8. 黒褐色土 締り強、粘性有、ローム粒・焼土粒(3mm以下)やや多く、焼土ブロック(5~10mm)少し含む
 9. 黒褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(5mm以下)多く、焼土(5mm以下)やや多く含む
 10. 黒褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック(5~15mm)やや多く含む
 11. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状に灰色粘土、ローム粒(2mm以下)少し含む
 12. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状に灰色粘土、ローム粒・焼土(3mm以下)やや多く含む

竈

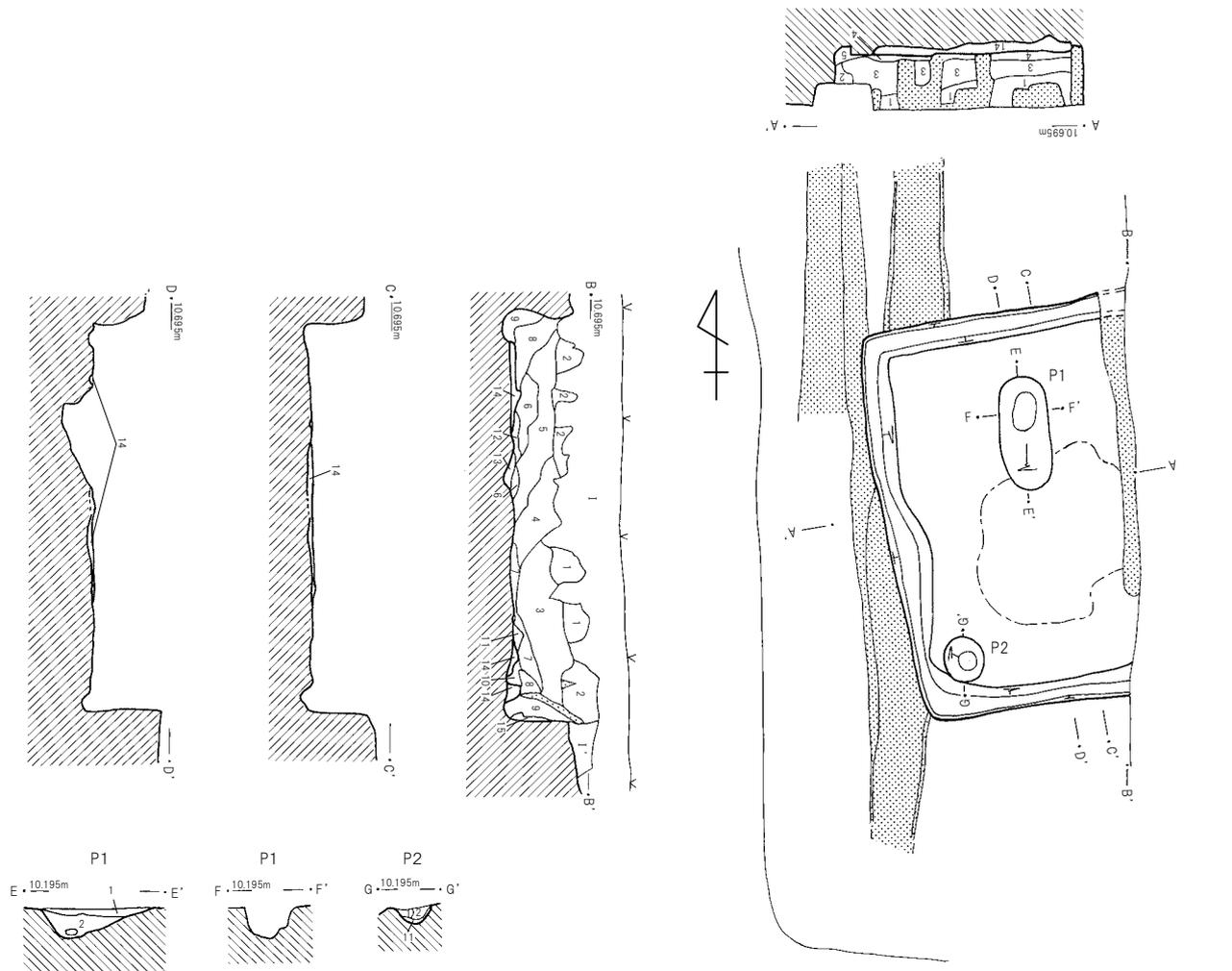


掘方

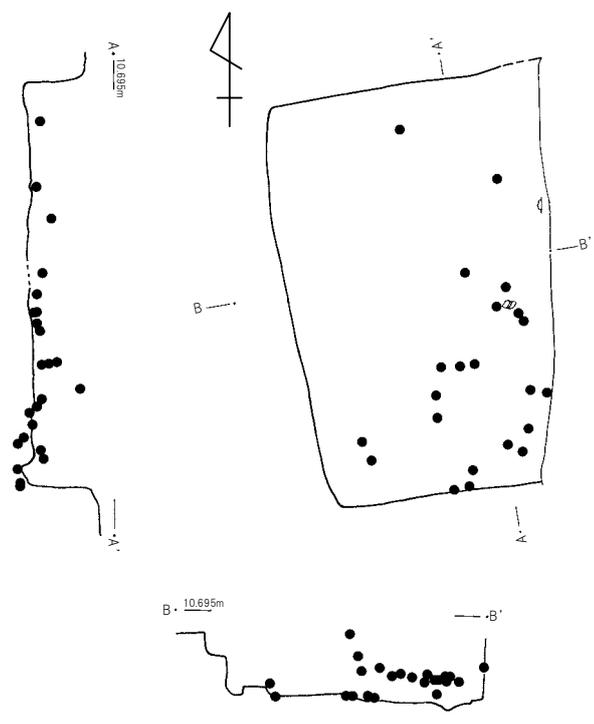


- ① 灰色粘土 締り強、粘性有、シルト質粘土(動植物痕の黒褐色土が貫入する部分以外は焼土が少ない)、ローム粒(3mm以下)僅かに含む
 - ② 灰色粘土 締り強、粘性有、黒色土粒・焼土(2mm以下)やや多く、ロームブロック(5cm大)・焼土ブロック(3cm大)少し含む
 - ③ 灰色粘土 締り強、粘性有、黒色土粒(2mm以下)・ローム粒(3mm以下)・ロームブロック・焼土ブロック(1cm大)少し含む
 - ④ 黒褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(5mm以下)多く、ロームブロック(1~6cm)やや多く含む
 - ⑤ 黄褐色土 締り強、粘性有、ソフト質ローム主体、シミ状に黒褐色土が貫入する
 - ⑥ 黄灰色土 締り強、粘性有、灰色粘土混じりのローム土
 - ⑦ 灰色粘土 締り強、粘性有、シミ状に焼土をやや多く、焼土ブロック(1cm大)少し含む
 - ⑧ 灰色粘土 締り強、粘性有、ローム・黒色土粒(2mm以下)少し含む
 - ⑨ 黒褐色土 締り強、粘性有、ローム粒(2mm以下)やや多く、焼土(1mm大)僅かに含む
- ①~⑨は竈構築土
——・D'

第 11 図 川崎遺跡第 32 地点 H66 号住居跡遺物出土状況図 (1/60)、竈・掘方 (1/30)



遺物出土状況図



A-A'

- 1.黒褐色土 黒灰色土(5mm大)・ローム粒・焼土(3mm以下)少し含む
- 2.黒褐色土 ロームブロック(5~30mm)多く含む
- 3.黒褐色土 ローム粒(2mm以下)1層よりやや多く、焼土(2mm以下)僅かに含む
- 4.黒褐色土 ローム粒(3mm以下)3層よりやや多く含む
- 5.黒褐色土 ローム粒(3mm以下)やや多く含む

B-B'

- 1.表土 黒灰色土 締り弱、耕作土
- 1'ロームブロック混入 耕作土
- 1.黒褐色土 締りやや有、ローム粒少量、I層が混入、焼土粒(3mm以下)やや多く含む
- 2.黒褐色土 締りやや有、ローム粒少量、I層が混入
- 3.黒褐色土 締り有、ローム粒(~3mm)・焼土粒(~5mm)多く、粘土粒(~1mm)極少量含む
- 4.黒褐色土 締り有、黒灰色土(5mm大)・ローム粒・焼土(3mm以下)少し含む
- 5.黒褐色土 締り有、ローム粒(2mm以下)4層よりやや多く、焼土(2mm以下)僅かに含む
- 6.黒褐色土 締り有、ローム粒(3mm以下)5層よりやや多く含む
- 7.黒褐色土(3層より黒い) 締り有、ローム粒(~2mm)多く、粘土粒(~2mm)やや多く含む
- 8.黒褐色土 締り有、ローム粒(~1mm)少し含む
- 9.黒褐色土 締りやや有、ロームブロック(1cm大)少し、ローム粒(~3mm)極多く含む
- 10.暗褐色土 締り有やや硬い、ローム粒(~1mm)極多く含む
- 11.暗褐色土 締り有やや硬い、ロームブロック(2cm大)少し、ローム粒(~1mm)極多く含む
- 12.暗褐色土 硬く締る、ローム粒(~2mm)極多く含む
- 13.暗褐色土(やや明るい) 硬く締る、ロームブロック(1cm大)少し、ローム粒(~2mm)極多く含む
- 14.黄褐色土と黒色土の混合 非常に硬く締る、ロームブロック(~3cm大)含む、粘床
- 15.ロームブロックと黒色土の混合 締り有

ピット1

- 1.黒褐色土 締り有、硬い、ローム粒(~2mm)多量、焼土粒(~3mm)やや多く、炭(1mm)少し含む
- 2.褐色土 締り有、ロームブロック(1~3cm大)多く、ローム粒(~1cm)極多く、焼土粒(~2mm)少し含む

ピット2

- 1.黒褐色土 締り有、ロームブロック(~1cm大)少し含む
- 2.褐色土 締り有、ローム粒(1~2mm)極多量に含む
- 3.黄褐色土 締り有、ソフトローム主体



第12図 川崎遺跡第32地点 H67号住居跡・遺物出土状況図 (1/60)

第12表 川崎遺跡第32地点遺構一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面	底面	深さ	備考
P1	方形	57 × 52	16 × 14	36.8	
P2	方形	49 × 41	10 × 9	29.4	
P3	方形	26 × 23	16 × 14	21.5	
土坑1	楕円形	140 × 116	128 × 104	30	
土坑2	円形	175 × 150	127 × 126	48.5	
土坑3	不明	72 × (57)	57 × (47)	30.6	

H 65号住居跡出土遺物

1～3は須恵器。1は、口縁部が一部欠損するがほぼ完形。口径 11.9 cm、器高 3.7 cm、底径 5.5 cm。底部回転糸切り。色調暗褐色でむらがない。白色針状物質を多量に含み、2 mm 大の石英を混じる。外面体部中央から底部にかけて、4 段ほどのとがり気味のロクロ痕。内面は滑らかである。2は、口径 12.5 cm、器高 4.0 cm、底径 4.4 cm。口径と底部の比は、2.84 : 1 である。底部回転糸切り。色調黄白色。白色針状物質を含み、5 mm 大の石英を多量に含み、1 mm 大の黒砂を多量に含む。外面体部中央に 5 段ほどのとがり気味のロクロ痕。内面は滑らか。3は、高台付き椀、完形。口径 13.3 cm、器高 5.6 cm、底径 7.1 cm。色調暗青灰色。回転糸切り後に高台を付ける。白色針状物質を少量含む。外面中央に 5 段ほどのロクロ痕、内面の中央部に丸気味のロクロ痕。

4は、土師器甕、口唇部に図示したように、幅 1.2 cm ほど片口状の凹みがある。丸い棒状の工具で、口唇部に水平に押し当て形成したもの。

5は、竈の支脚。上半部は欠損。外面は幅 2.5 cm で縦方向に面取りをほどこしたものの。混じりものは全くなく、ローム土をそのまま焼成したものであろう。

6は、竈の袖の補強にした軒丸瓦。外面に縄目叩き痕、内面には布目圧痕。白色針状物質をわずかに含み、鳩山窯跡産。

7は、刀子の破片。関と柄の部分。両端部が大きく欠損。

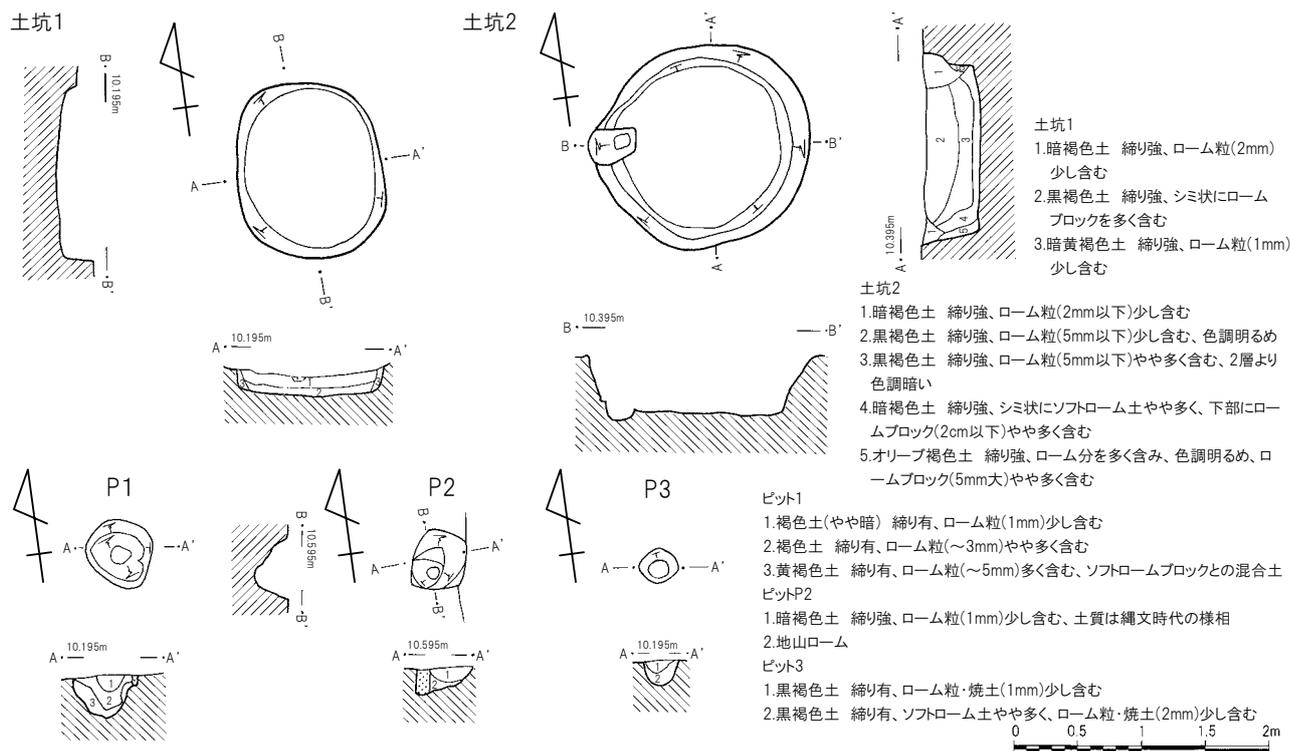
8・9は鉄釘の破片。両端部が大きく欠損している。

10は、小形須恵器環。口縁部 1/8、体部 1/2、底部欠損。口径 10.5 cm (推)。いわゆる環 G の系統の一種かもしれない。色調青色、東金子窯跡産。内外面ともに滑らかである。住居には伴わない混入品であろう。

11は、縄文時代の磨石で、両面に敲打による凹みの痕跡がある。石質は、閃緑岩。

H 66号住居跡出土遺物

1～4は須恵器環。1は、口径 12.5 cm、器高 3.7 cm、底径 7.0 cm。現存 1/2。底部回転糸切り後、周辺部回転ヘラ削り。暗青灰色。白色針状物質が混入。内面爪立てにより凹んだ稜がある。2は、口径 12.7 cm、器



第13図 川崎遺跡第32地点土坑・ピット (1/60)

高3.5 cm、底径7.8 cm。底部は回転糸切りのみ。暗青色。口唇部外面に3 mm程度の自然釉がかかる。重ね焼きによるもの。2 mm程度の石英が混入。外面調整滑らか。体部中央に輪積痕がある。3は、口径12.6 cm（現存1/2）、器高3.6 cm、底径7.7 cm。底部回転糸切りのみ。色調全体に明ベージュ。口唇部外面暗褐色（重ね焼痕）。外面調整滑らか。底部に「|」のヘラ記号。4は、口径12.6 cm、器高3.8 cm、底径8.0 cm。底部回転糸切りのみ。色調明ベージュで3に似る。口唇部直下7 mm前後にロクロ痕による凹みが一週している特徴がある。外面調整全体に滑らか、底部にヘラ記号「|」で3に同じ。

白色針状物質は含まない。外面の底部から口唇部にカーボンが付着、内面の口唇部にも一部帯状に付着。灯火具に転用使用か。

5、6は須恵器椀形。5は口径15 cm（1/2 現存）、器高5.5 cm、底径8.0 cm。色調青灰色。底部は回転ヘラ削りによる切り離し。外面内面調整はわずかにロクロ痕が残る滑らか。胎土は1 cmの茶色の砂利を含み、1 mmの白色の砂を含み、白色針状物質も含む。6は、口径16 cm（現存1/2）、器高5.7 cm、底径8.0 cm。色調青灰色で底部にかけて灰白色が強くなる。底部は回転糸切り後、周辺部回転ヘラ削り調整。2 mmの石英を含み、黒色の砂を含む。白色針状物質を含む。体部外面に、口唇部より1.5 cm下方に外面にロクロによる凸一周する特徴がある。その他外面内面ともに滑らか調整。

7、8は砥石。7は長台形の4面に使用面がある。8は、長台形、幅が広く扁平になっているが、主な使用面は2面であるが、側面も使用している。図示上方に穿孔がある。紐を付ける穴か。

9は、鉄滓。10は、刀子の破片。11は、鉄釘。先端が曲がっている。12は、馬具の破片か。

H 67号住居跡出土遺物

1は須恵器杯。口径12 cm（2/3 現存）、器高3.8 cm、底径5.7 cm。口径底径比は約2.0:1。底部回転糸切り離し。色調暗褐色。5 mm以下の石英を含み、白色針状物質を含む。内面にカーボンが付着。内外面のロクロ痕は太く丸い。

遺構外出土遺物

縄文晩期の土器が出土している。1は、沈線による三叉文と点列文がうかがえる口縁部破片。色調黄味が強い。口唇部先端はとがり気味に丸く処理されてい

る。2も、斜状に沈線の間点列文を加えたもの、口唇部先端、色調は1に同じ。

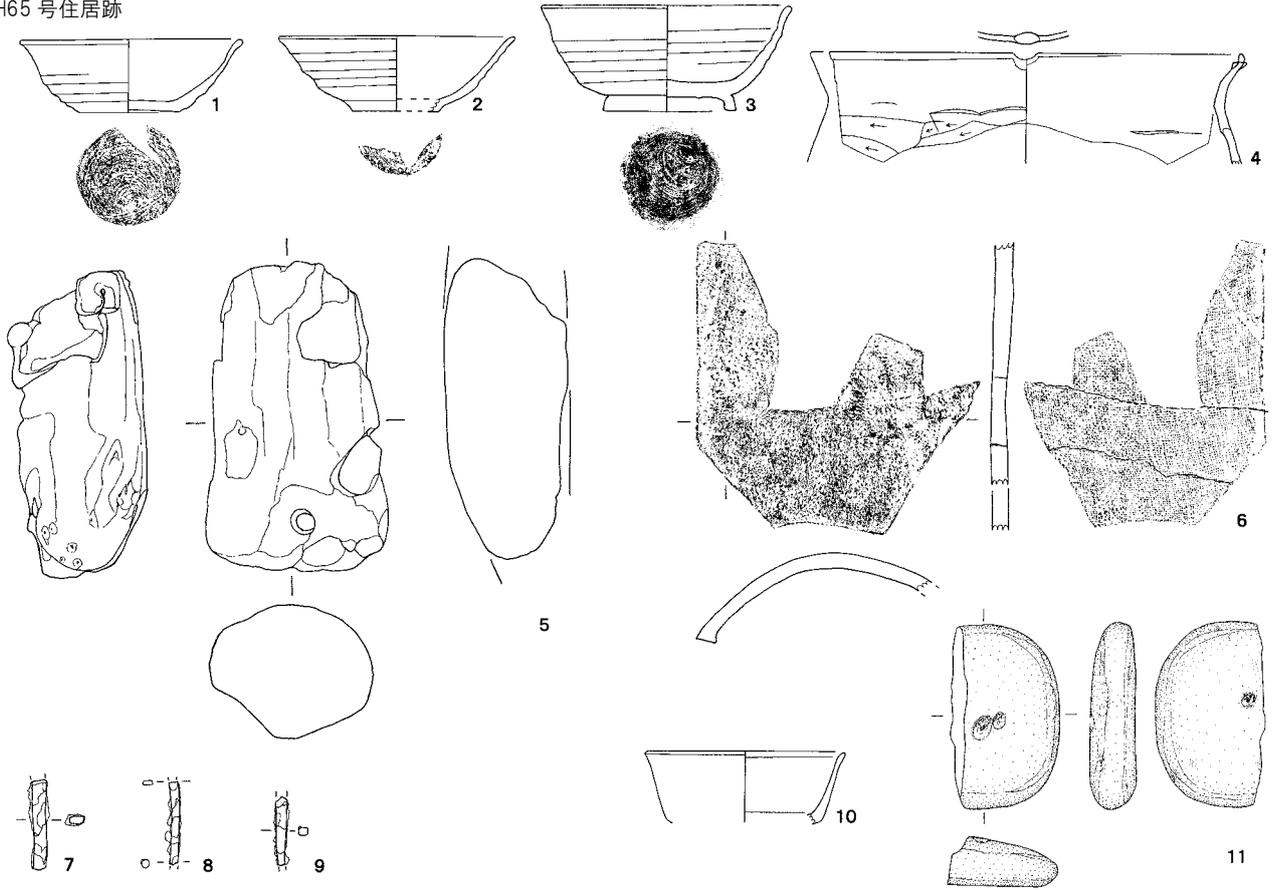
3は入り組み三叉文の直前とその間を逆「U」で埋めたもの。口唇部は丸く整形。器面はヘラで磨いた後に文様を「刻んだ」もの。刻んだというのは器面の乾燥が進んだ後、彫り込むような力が働いているからである。胎土には2~3 mm程度の茶色の小砂利が混入。

4は、入り組み三叉文によるもの。色調は、1・2よりもやや暗い。胎土には黄色・白色の砂が多量に混じる。

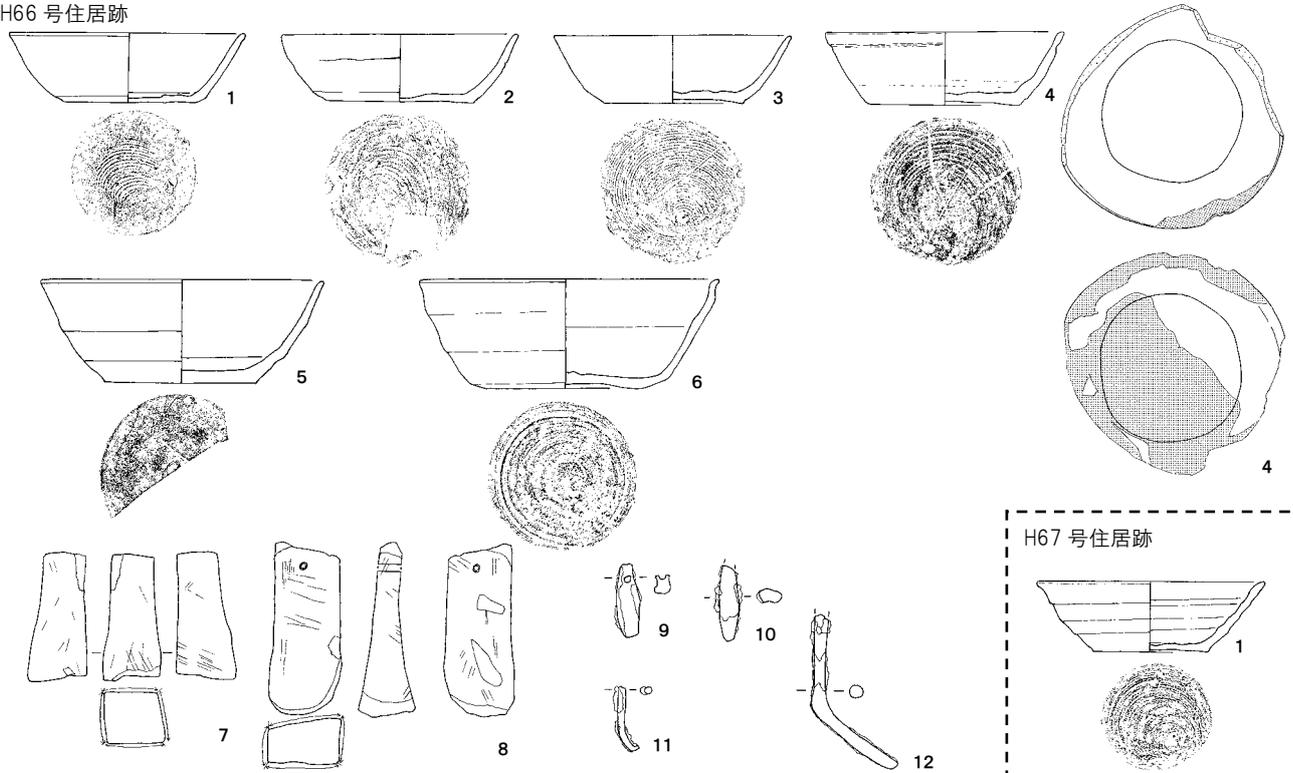
5・6は、器面外面に指頭による凹凸が激しい粗製土器。5には、輪積みの痕跡がある。両者ともに、6 mmから3 mmの石英や粘板岩を多量に含み、1~4とは、胎土を異にする。

なお、1・2は安行3c式、3・4は安行3d式であろう。5・6は1~4に伴う粗製土器である。

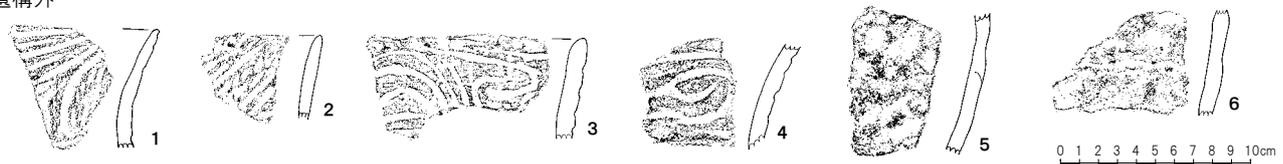
H65号住居跡



H66号住居跡



遺構外



第14図 川崎遺跡第32地点 出土遺物 (1/4)



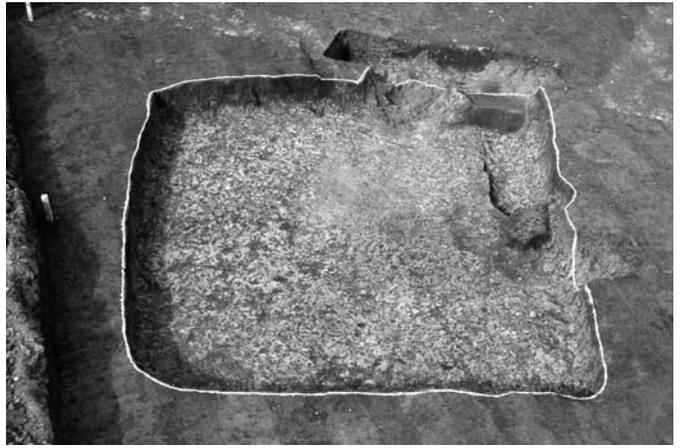
北野遺跡第 19 地点トレンチ 1



北野遺跡第 19 地点トレンチ 2



川崎遺跡第 32 地点全景



川崎遺跡第 32 地点 H65 号住居跡全景



川崎遺跡第 32 地点 H65 号住居跡階段状遺構



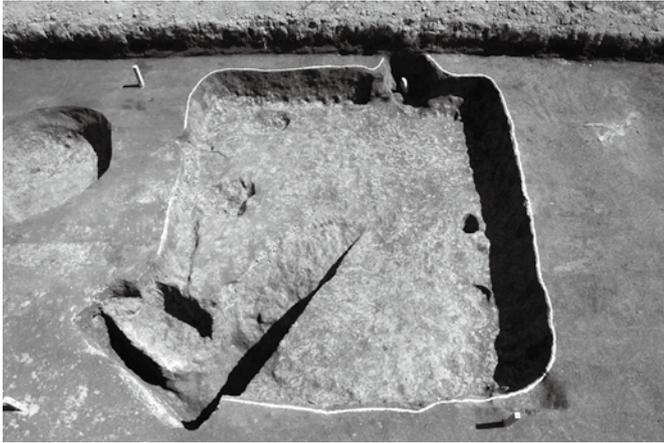
川崎遺跡第 32 地点 H65 号住居跡竈



川崎遺跡第 32 地点 H65 号住居跡遺物出土状況



川崎遺跡第 32 地点 H65 号住居跡掘方



川崎遺跡第 32 地点 H66 号住居跡全景



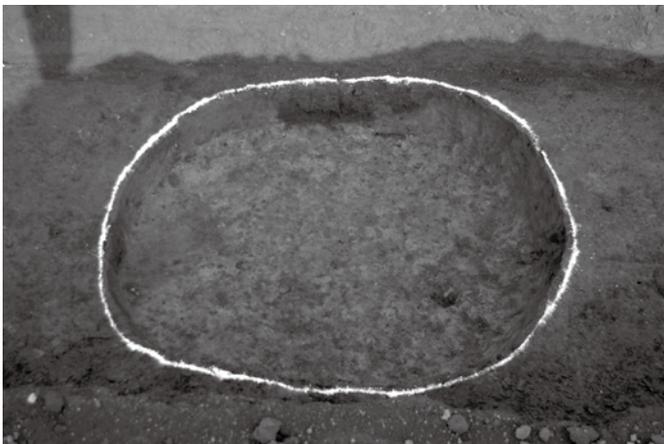
川崎遺跡第 32 地点 H66 号住居跡竈



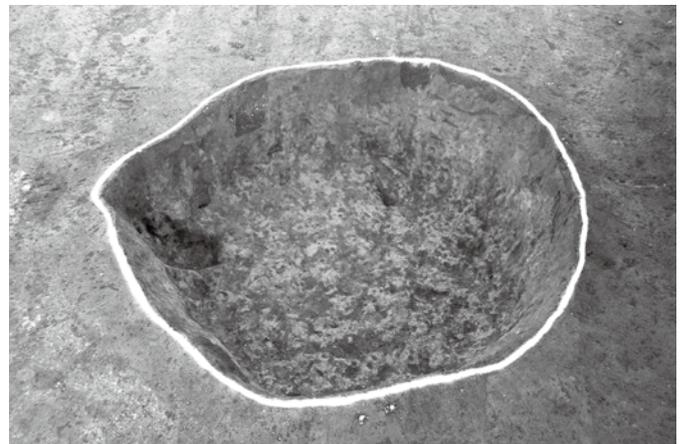
川崎遺跡第 32 地点 H66 号住居跡掘方



川崎遺跡第 32 地点 H67 号住居跡全景



川崎遺跡第 32 地点土坑 1



川崎遺跡第 32 地点土坑 2

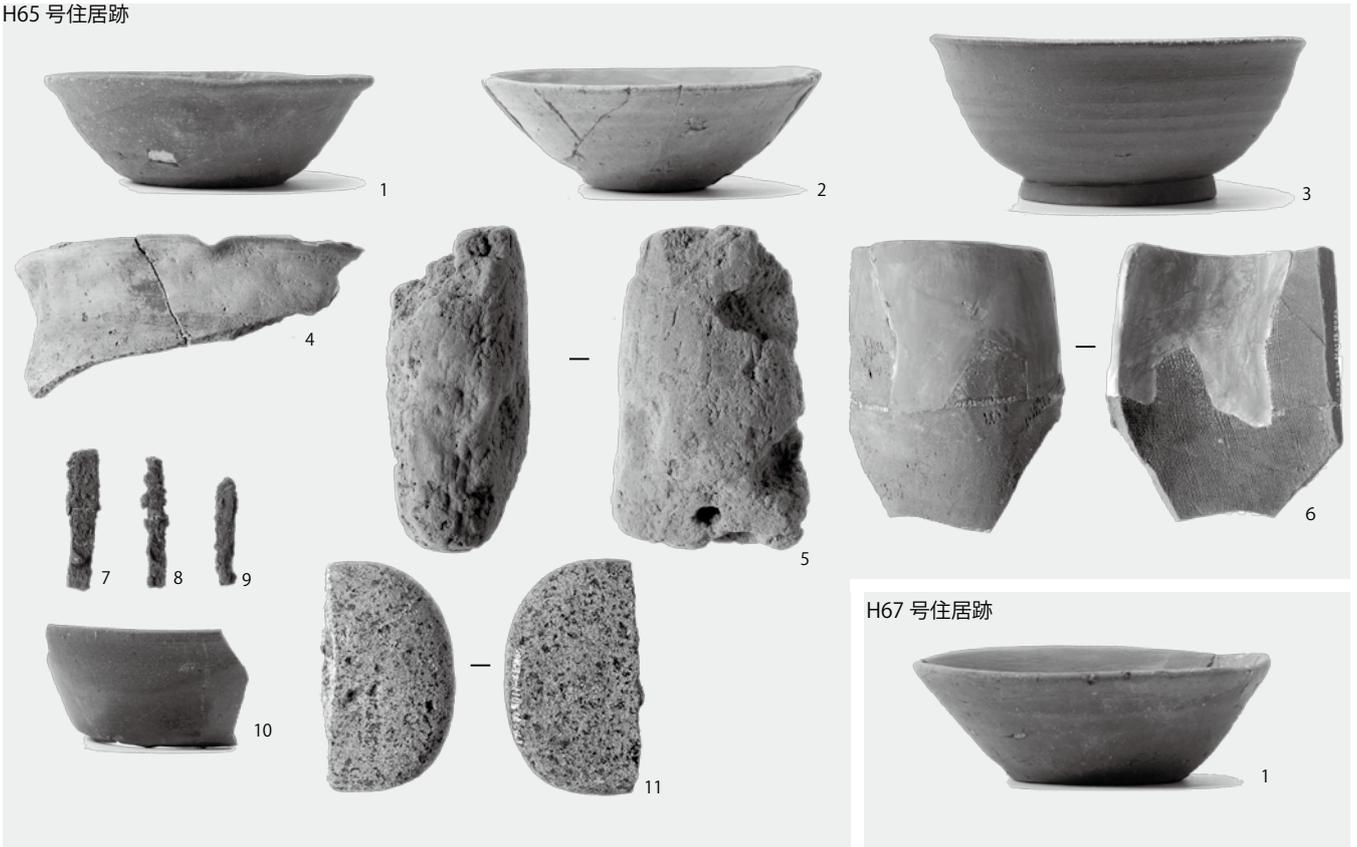


川崎遺跡第 32 地点土坑 3



川崎遺跡第 32 地点調査風景

H65 号住居跡



H66 号住居跡



遺構外

